

追悼

故・樋口敬二先生への海外からの追悼メッセージ

総合地球環境学研究所 安成哲三

はじめに — GEN と樋口先生 —

樋口敬二先生が逝去された 2018 年 10 月 19 日、私はたまたまネパールの首都カトマンズにいました。名古屋大学雪氷学研究室チームのゲストメンバーとして、ネパールでも一番大きな氷河のひとつであるトランバウ氷河末端の氷河湖ツォー・ロールバまで訪ねました。トランバウ氷河は近年の温暖化のために急速に後退し、氷河湖決壊洪水 (GLOF) が心配されています。ネパールの氷河地帯までのトレッキングは 2007 年以来であり、標高 4500 メートルの氷河湖湖畔まで登るのは 70 歳を超えた私にとってはけっこうきつかったですが、それでも豊かなヒマラヤの人と自然の中、若い研究者たちとの調査行は楽しいものでした。

名古屋大学は、ネパールヒマラヤの多くの氷河を 1973 以来、ネパールヒマラヤ氷河学術調査プロジェクト (GEN) として、ずっと継続して調査・観測をしてきました。気候変動と氷河変動の関係が「地球温暖化」でも一つの大きな課題になっており、長期的な観測の重要性は言を俟ちません。しかし、せいぜい数年の予算しか保証しないという現在の日本の科学研究費のあり方を考えると、50 年近く継続されている GEN は驚くべき偉業であり、関係者の大変な努力の賜物です。この GEN は、当時の水圏科学研究所におられた樋口先生が代表となって 1973 年から若い研究仲間たちと開始し、現地ではネパール水文気象局 (DHM) が共同で進められてきました。この共同研究の過程で、ネパールでも多くの氷河や気候の研究者が育っていきました。ちなみに、私自身は、1974~1976 年に京都大学大学院博士課程の学生として、また 1978 年に京大助手として GEN に参加し、研究者の卵として多くのことを学ぶことができました。樋口先生からは、文系、理系を超えて地球・自然・人をシームレスに考える視点を学

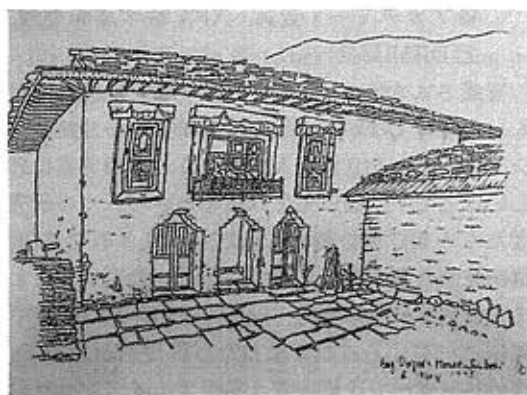


図 1 樋口先生による東ネパールジュンベシ村の民家 (J P Lama 氏実家) のスケッチ、カトマンズの J P Lama 氏の自宅に保管されている (2018 年 10 月 19 日安成哲三撮影)。

びました。

樋口先生は、その後、GEN での経験も生かして、アジア・アフリカなどの発展途上国における地球環境研究を支援する国際組織 START や APN の活動にも深く関わられ、これらの地域における研究者育成と研究プロジェクト支援も進められました。以下に紹介する追悼メッセージは、DHM の関係者、および START および APN 関係の研究者から寄せられたものです。

樋口先生はまた、自然・人物・建物などのスケッチがお得意で、たくさんのすばらしい絵を残されています。図 1 の写真は、1978 年の GEN 調査期間中に樋口先生が東ネパールのシェルバの村ジュンベシを訪れた際に描かれた民家のスケッチの写真です。この民家は、1974 年以来 GEN の調査を支えてこられたシェルバのガイド J P Lama 氏の実家であり、彼はカトマンズの自宅にこのスケッチを宝物として大切に保存されていました。私はこの写真をまさに先生が亡くなられた 10 月 19 日

にカトマンズの J P Lama 氏の自宅で撮影しました。この写真は樋口先生の奥様に最愛のご主人への想い出としてお送りしました。改めて、樋口先生のご厚情とご指導に深く感謝し、ここに追悼の意を表します。

1. ネパール国水文気象局関係者からのメッセージ

○ Madan L. Shrestha, Ph. D. (ネパール科学技術アカデミー・会員, APN 科学諮問委員, 元 DHM 局長)

安成さんからのメールで樋口先生の悲報に接し、ただ驚くばかりでした。素晴らしいリーダーシップを持った立派な人物を失うことは非常に悲しいことです。樋口先生は日本とネパールの研究者たちの架け橋を築き、私たちの良き師でした。樋口先生と知り合い、懇意にさせていただいたことを大変光栄に思います。樋口先生の写真と、先生、奥様と一緒に名古屋で撮った写真があったので、次のメッセージを添えて、私のフェイスブックに投稿しました。

(彼の Face Book より)

「著名な科学者であると同時に自然の神秘の熱心な探究者でもあった樋口敬二先生が 2018 年 10 月 19 日の朝に逝去されたという知らせを受け、とても悲しいです。享年 92 歳でした。先生は善良な心を持つ素晴らしい人でした。70 年代初めに日本とネパールの共同研究であるネパール氷河学術調査 (GEN) の下で氷河学研究を最初に開始したのが彼でした。1974 年に私は二人の日本人科学者である藤井理行氏と中尾正義氏に同行して、西ネパールヒマラヤのダウラギリ峰の後方に位置するヒドゥン・バレー (Hidden valley) の環境と氷河を調査する GEN74 に加わりました。GEN が先駆けとなり、ネパールでの高山の環境や氷河の観測・調査が現在も本格的に続けられています。樋口先生と過ごした日々を思い出しながら、偉大で立派だった先生に敬意を表します。心からお悔やみを申し上げると共に、ご冥福をお祈りいたします。」

他に、DHM の Dr. Bhubanesh Kumar Pradhan, Dr. Om Ratna Bajracharyan 氏, Dr. Bikram Shrestha Zoowa などからもお悔やみと追悼文を

いただきました。

2. START および APN 関係者からのメッセージ

○ Dr. Hasan Virji (前 START 国際事務局長)

悲しいお知らせです。START 常任委員会の委員で START 初期の頃からお世話になった樋口敬二先生が 2018 年 10 月 19 日に逝去されました。92 歳でした。名古屋大学教授だった樋口先生は学者であり紳士でした。優しく思いやりがあり、いつも笑顔でやさしい人でした。先生は地球環境問題の研究と教育に力を注がれ、START 立ち上げ当初の日本からの資金調達でも手助けしてくださいました。氷河学と気象学において独創性に富んだ研究をされ、多くの若い科学者の卵に助言をされてきました。

先生はまた画家でもあり、行く先々で水彩画を描かれました。Global Change in Africa (1992 年に Niamey で開催された国際会議) に関する START の報告の表紙は、Niamey に向かうバスの中で樋口先生が描いた部族の男性の絵です。先生が米国地球物理学連合 (AGU) のビルを描いた 2 枚の水彩画と、海外旅行の際に描かれた 2 枚の絵が私の手元にあります。また、旧国際科学会議 (ICSU) ビルを描いた作品は、陶製タイルのコースターの絵として使用されました。彼の妻、サトコ (哲子) さんも画家です。

樋口先生との思い出がもう一つありました。1995 年に IGFA が日本政府主催で京都で会合を開いたときのことで、そのとき樋口先生が Roland や私など数人を、すでに 90 歳を超えておられた母上のご自宅の日本式お茶会に招待してください、そのとき私は生まれてはじめて茶席を経験しました！

他に Dr. Thomas Rosswall (スウェーデン国際協力事業団科学諮問委員会委員長, 元 START 国際事務局長, 元 IGBP 国際事務局長) や Prof. Roland Fuchs (元 START 国際事務局長, 元 APN 科学諮問委員会委員長, 元国連大学副学長) および Dr. Wolfgang Grabs (元ドイツ水文学研究所グローバル流域データセンター長) などからもお悔やみと樋口先生の思い出のメッセージが届いています。Prof. Fuchs は、樋口先生の偉業を讃

えて、START または APN で樋口先生の名前が入った賞を創ることを提案されています。

START のウェブサイトには、樋口先生への追悼ニュースが、2018 年 10 月 25 日付で、現 START 国際事務局長である Dr. Cheikh Mbow 名で、追悼メッセージが掲載されました。

<https://start.org/news/professor-keiji-higuchi/>

また、10 月 26 日の APN ニュースで、樋口先生の追悼文が掲載されました。

<https://www.apn-gcr.org/2018/10/26/professor-keiji-higuchi-1926-2018/>

英略語説明：

IGFA : International Group of Funding Agencies for Global Change Research 地球環境研究に資金（研究費）を提供する各国の予算機関の国際的組織。

GEN : Glaciological Expedition of Nepal 名古屋大学ネパール氷河学術調査プロジェクト

DHM : Department of Hydrology and Meteorology, Government of Nepal. ネパール国水文気象局

START : Global Change System for Analysis, Research & Training 緊急の地球環境問題を理解し、情報共有をし、行動を促すために、発展途上国における科学的能力を強化する研究、教育やトレーニングの機会を増やすための国際組織。

APN : Asian-Pacific Network for Global Change Research START と連携したアジア・太平洋地域における地球環境研究を支援するネットワーク組織。

謝辞：

メッセージの翻訳にあたっては、総合地球環境学研究所の有田恵さんにご協力をいただきました。ここに記して感謝します。

(2018 年 12 月 5 日受付)